

広報 てんのう

町のうごき

本籍数	5,202
本籍人口	16,057
世帯数	4,189 (4,216)
住民登録人口	15,544 (15,537)
内 男	7,546
女	7,998

4月1日現在
()内は3月1日現在

発行・秋田県天王町役場 電 (018878) 2211~4
 編集・企画室 印刷・秋田協同印刷 電 (0188) ☎7477~8

天王町長選挙

おらが町の町長に

藤原氏四選

投票率八十八・五二パーセント

任期満了に伴う、天王町長選挙が四月十七日、町内十一投票区において行われた。四月十日の告示に伴い、現町長の藤原慶三郎氏と前町助役であった児玉孝之助氏の両氏が立候補の届出をした。十七日午後七時、天王小学校体育館において即日開票の結果、藤原慶三郎氏が五千四百二十二

票を獲得して四選をはたした。当日はあいにくの膚寒い日であったが「おらが町の町長は誰に」ということで、住民の関心も高く、朝早くから各投票所とも出足は好調。投票率は八十八・五二パーセントで、前々回の八十八・九九パーセントを大きく上回った。

天王町長選挙開票結果

- ▽投票総数 九千十四票
- ▽有効投票数 八千八百九十二票
- ▽無効投票数 百二十二票
- 藤原慶三郎(無所属現) 五千四百二十二票
- 児玉孝之助(無所属新) 三千四百七十票

藤原氏の略歴



旧制秋田中、東京外国語学校(現東京外語大)卒。
 旧村議会議員一期のあと、昭和四十年、町長選に初当選、連続四期。
 一〇 天王町天王字上江川四七―八

▶ 夫婦そろって清き一票(第九投票区にて)



投票区別の投票率

() 内は旧投票区名

投票区	有権者数 人	投票者数 人	投票率 %
第1(二田第1)	1,559	1,428	91.60
第2(江川)	704	658	93.47
第3(天王)	1,019	925	90.78
第4(天王)	735	667	90.75
第5(塩口)	599	556	92.82
第6(羽立)	727	657	90.37
第7(大崎)	708	653	92.28
第8(二田第2)	1,062	928	87.38
第9(出戸)	1,349	1,163	86.21
第10(追分)	780	612	78.46
第11(追分)	941	767	81.51
計	10,183	9,014	88.52



▲ 住民が多数見まもるなかでの開票風景(天王小学校体育館にて)

秋田湾地区工業開発

鉄工業の誘致により 県民所得の向上を

三月三十一日に住民研修開催

講話要旨

町では、去る三月三十日町公民館において、秋田湾地区工業開発計画に関する住民研修会を昨年に続いて開催した。この研修会は、過去四回実施した鹿島研修への参加者と秋田湾地区工業開発天王町推進委員を対象として行ったもので約百名の出席者を数え、当日、講師にお招きした三宅県開発技監のお話に熱心に耳を傾け、講話終了の後活発な質疑が行われた。

秋田湾地区の開発の必要性は若年層の職場を確保するとともに、出稼ぎの解消、また県の産業構造の改善をはかり第二次産業の基幹となる重工業を誘致しこれに関連する工業を進展させて、県民所得の向上と低賃金の是正をはかることである。この工業開発によって地元の既存産業の振興をはかり、また全県の中小企業にその波及効果を及ぼすことである。

く、既存の地場産業に与える利益が大きい。

製鉄所の規模は、川崎製鉄の水島、新日本製鉄の君津、住友金属の鹿島等に匹敵するものである。

製鉄所の秋田湾立地の条件は全国的に比べてもよい条件がととのい、最適地と政府、業界筋にも認められております。

鉄鋼の関連工業としては県内の既存産業の発展につながる業種の選択に努める所存です。

自然環境の保護

埋立ての規模は当初五千ヘクタール

埋立ての規模は当初五千ヘクタール画だったが新しい世代の開発の余地を残すべく二千八百ヘクタールの造成になりました。工業開発に際しての導入業種として鉄鋼(銑鋼)を選んだ根拠は雇用力が大きく賃金水準が高いうえに鉄鋼の生産波及効果が極めて大きい

工業基地の建設用地の造成は船越水道を境にして男鹿地区の脇本、船越の地先と天王地区の江川、蒲沼、出戸地先を行う予定であります。また、埋立てによって自然の海浜がなくなりませんが脇本地区の前面には幅五百メートル以上の緩衝水域を設定し、対岸にも砂浜をつくり、海洋性レクリエーションの場を造成、また在来の出戸海水浴場は残す計画です。

新しくできる港湾の規模は貨物量、四千万トンを目ざし、入港船舶は二十五万トン級の超大型船が入港できる計画で、日本最大の港湾になるものと考えております。

工業用水の確保には雄物川から取水し、電力は製鉄所の副生ガス、クリーンエネルギー源を活用して百二十万キロワットの発電で自給自足の計画です。

新しい住宅の配置については既存の住宅街と隣接のうえ商店街のサービスもいろいろな施設など、皆一緒に活用させる方向で検討しています。

人口増に伴う昭和六十五年頃には新住宅地に小学校三校、中学校二校を新設し、高等学校も新設の計画です。

一番の問題である公害については防止対策により万全の策を講じる所存であります。

漁業補償、及び対策についてはむしろ工業開発によって魚介類の需要が増大しますので県内の漁場の開発と漁業の振興をはかりたい。また被害を受ける漁業者については納得のゆく補償をし、引き続き漁業を継続する漁業者に対しては増殖漁業等をすすめる、所得の確保をはかりたい考えである。

農業については、この開発は農工一体による地域農業の新たな新展をはかるものであり、農業振興にはなお一層の力を注ぐ所存であります。

森林等については水源涵養林環境保全林、緩衝緑地等の造成を進め、林地の荒廃を防ぐ計画です。

地元産業の振興

工業開発に伴って地元中小企業の果たす役割は非常に大きく開発によって中小企業の新しい発展ができるものと考え、地元企業に対し、優先的に工事を発注、また受け入れ体制の強化に努めます。

工業開発の効果については雇用問題が解消され、県民に多種多様な就業の機会をもたらすこ

とができ、出稼ぎ等の諸問題も解決されます。また生産額の増大、各市町村等の財政の増収、工業基地の形成に伴い大規模港湾、流通センター、工業用水、高速交通体系、情報の機能等、産業関連基盤の整備が促進されますので本県の産業集積は飛躍的に増強されるものと考えております。

最後にこの研修を契機になお一層の関心を寄せていただき、秋田湾地区開発に対する遠慮のないご意見、ご提言をお願いいたします。

心配ごと相談室

みんなが幸福で健康な生活を営むためには、いろいろな心配ごとを解決することが必要です。町社会福祉協議会では、生活苦や生活上のこと、住居のことなどのいろいろな心配ごとと援助相談所の開設を次の日程で行います。利用者の秘密はかたく守られ相談は無料です。

▽相談日 五月二十五日(水)
▽時間 午前九時～正午
▽場所 二田児童館

郷土史コーナー

雨乞いの神様

東湖八坂神社の境内の一隅にある竈堂の奥に、高さ二メートル二十センチ、巾五十七センチ、とそりを引くかけ声が雨乞いの厚さ二十五センチの石像が金毘羅大権現と深く刻まれた石碑と共に鎮座している。これが雨乞いの儀式の主役を務めた「雨乞いの神様」の姿である。彫り込まれているのは薬師如来だろろうと言われている。

「子どもの頃のことなので記憶が定かでないがあの石像をそ



▲ 雨乞いの神様(石像)

熱心に耳を傾ける参加者の面々



入学おめでとう 元気に楽しく勉強



▲お母さんにつき添われて元気に（円内は湖岸保育所でのスナップ）

「四月、入学シーズン」
二日、町内各小学校において
一斉に入学式が行われた。
当日はお母さんにつき添われ
て登校し、各教室に入ると新し
い友だちを見て目を輝かしてい
た。担任の先生から名前を呼ば
れると大きな声で「ハイ」と
返事をし、つき添ってきたお母
さんたちも終始ニコニコ。
また、四日には天王中学校の
入学式が行われ、新しい学生服
に身を包んだ新入生は多少緊張
したおももちで式にのぞんでい
た。
翌、五日からは各幼稚園、保
育所の入園式、入所式が相つ
いで行われた。
各保育所の入所式ではまだ幼
いせい、先生のお話もうわの
そら、という感じでやんちゃな
一面が見受けられた。なかには
お母さんと離れたせいか、大粒
の涙をこぼしている子どもも
あった。

救急業務について



住民の生命を守るため、救急業務は日夜、神経を使い、非常の事態にそなえています。
救急車の昨年の出勤回数は二百三十回で、月平均十九回。
本町の一年を通じて救急出動のなかで一番多いのは脳卒中で次に交通事故となっております

救急車の利用の際、よく「〇病院へ」と要請がありますが消防署では通報された時点で近くの医師の不在を確かめ、病院に搬送します。（天王町は安田医院、長沼医院、船越）
症状が悪い場合、応急処置をし、それから秋田市の救急病院へと再搬送するシステムとなっております。（出戸、追分地区は極力秋田市の病院に搬送するようにしています。）
救急車が出動している場合でも各市町の消防署に連絡し早急に手配されます。

また、日曜、祭日等に自分の車を利用する際にはどこの病院がいいか「一一九番」に問い合わせると病院の紹介もしてくれます。
本町では脳卒中が多く、救急車を利用するにあたって脳血管センターを要請されますが脳血管センターでは医師の診断と紹介がなければ受け付けられない非常に場合、あわてずに住所氏名、性別、患者の状態を把握し、通報してください。
電話は「一一九番」です。
（追分地区は〇一八七八三四三四）

住民の安全を守る

交通指導車を購入



新しくお目見えした交通指導車

町では去る四月五日、住民の交通安全を推進する交通指導車（日産スカイライン一六〇〇DX）を購入した。

当日、東湖八坂神社において町当局と天王町交通安全協会連合会の関係者が参列して交通安全祈願が行われた。

交通指導車は日夜住民の交通指導にあたり、事故のないよう活動しています。
交通ルールを守り、安全運転に心がけましょう

短歌

天王町短歌会（四月）

二田 船末キヨノ
呼びやすく女らしくと初孫の名
まへに吾も浅き恵だす

追分 佐藤 生子
内申の不正あばける記事読みつ
つむなしさいかりさらに悲しみ

塩口 桜庭 太え
摘み採りし露の若芽とわかさぎ
と酔味嗜和えて食味香わす

浪谷 桜庭あやえ
霜の夜の月の明かりに感わされ
夜半に目覚めぬ孫の朝発ち

塩口 桜庭 慧子
冷んやりと納骨堂は静もりて読
経の中に母を納むる（京都妙心
寺にて）

羽立 安田 ツル
一斉に催芽はじめて種奴の熱気
は作業場の中にももれり

蒲沼 鎌田 昭子
腰を曲げし同年配の姿見てガラ
スに向ひて我をたしかむ

俳句

天王町俳句会（四月）

追分 渡部 六愁
逆らはぬ妻と耕す薯の畝

追分 鶴谷 トシ
病む日々を子にいたわれ猫柳

浪谷 戸田 栄春
春急ぐ魚道の水の速さかな

牛坂 藤原 邦
春風の肌につめたく花遠し

追分 安田 鹿山
寒鱈の骨ばなれよし妻の味

天王 米谷 冬華
恋遂げし猫遣しや陽の匂い

下出戸 佐々木汀月
渡り来て小鳥の背戸となりけり

天王 児玉 伯秋
団地妻しじみ十粒買う日ぐれ

天王 京谷 蒼湖
合格の子ポリニウム高くテレビ
見る

